

ピスガからの風

第45号

2017年1月

社会福祉法人 近江ちいろば会

ピスガこうせい 〒520-3242 滋賀県湖南市菩提寺327-4

TEL.0748-74-3900(代表)

FAX.0748-74-3910

http://chiiroba.jp/

認知症徘徊高齢者の早期発見・保護訓練

2016年11月20日

菩提寺地域において、2回目の「認知症徘徊高齢者の早期発見・保護訓練」が行われました。「認知症高齢者が徘徊し所在不明になっている」との情報を受け、自治会関係者が捜索隊グループを作り、早期に発見、適切な声掛けを実施し、安全に保護をするというシミュレーションを行いました。当法人からは18名の職員が、湖南市職員、認知症地域推進員らと共に、徘徊高齢者役と、観察役に分かれてこの訓練に参加しました。



事前に声掛けの勉強をしていますが、実際に声をかけると言葉に詰まったり、話が続きなかつたり、逃げられてしまったりと、苦心されている様子も見られましたが、皆さん真剣に訓練に取り組んでおられました。



高齢になっても、認知症になっても、住み慣れた地域で安全に暮らすためには、地域での支え合いが本当に大切になっています。

高齢者支援センターぼだいじ 鶏飼 由美子

本年もご愛顧の程 よろしくお願い申し上げます



館長 森口 茂

2016年は厳しいニュースも多かった中、お蔭様で運営・経営の両面に渡り比較的安定した状態で終えることができました。

去年は、週に30時間以上の勤務を行っている職員に対して、ストレスチェックを実施しました。質問票に職員自らが回答することによって、仕事の質や量に対するストレスや精神面でのストレスを把握し、改善につなげていこうというものです。私自身も行いましたが、同じ仕事をしていても、仕事への向き合い方、同僚や上司との人間関係で、ストレスの感じ方は随分と変わるものだと感じました。ビジョンを明確にして、働きがいのある、やりがいのある、人間関係の良い職場風土を形成し地域社会に貢献していければと思います。

貢献感が幸福感に繋がれば、ストレスの捉え方も変わってくるのではないのでしょうか。最近、朝礼でも活用している「ニーチェの言葉」を皆様にご紹介し、次年度へ向けての心持の糧にさせていただければと思います。

タイトル：一緒に生きていくこと

一緒に黙っていることは素敵だ。
もっと素敵なのは、一緒に笑っていることだ。
二人以上で、一緒にいて同じ体験をし、共に感動し、泣き笑いしながら
同じ時間を共に生きていくことは、とても素晴らしい事だ。

顔認証徘徊防止システム「LYKAON」を設置しました

厚生労働省の「介護ロボット導入促進事業補助金」を活用して、リカオン社製の顔認証徘徊防止カメラを、菩提寺と水口に設置することになりました。

LYKAONのコンセプトは、「何もつけない、持たせない、非接触型の顔認証見守り支援」で、入居されている方、ご利用いただいている方の自由度と安全性を確保しながら、事前にご登録いただいている方が万が一ひとりで屋外に出ていかれても、どこかにお出かけになってしまう前に職員に案内が届くようになっています。鍵をかけて出入りを制限することなく見守りができる、「ご本人よし」、「ご家族よし」、「事業所よし」の、「三方よし」セーフティシステムです。

登録につきましては、職員を通してお声がけさせて戴きます。併せて、ご相談も承ります。

これからも、皆さまがより安心・安全に、そして快適にお過ごしいただけるよう、職員一同、努めてまいります。



寄付金・後援会費 感謝報告

2016年10月～2016年12月末現在

【順不同・敬称略】

川嶋 昭吾	増井 武彦	西川 泰子	医療法人社団	信愛 幼稚園
和田 かほる	福澤 祥子	池田 澄子	とみおか内科クリニック	扇田 紀子
	藤田 恭子		高橋社二・道子	前田 敬子

事業内容

ケアハウス ピスガこうせい/ぼだいじデイサービスセンター/ぼだいじホームヘルパーステーション/ぼだいじ居宅介護支援センター/高齢者支援センターぼだいじ/グループホームぼだいじ/中央デイサービスしんあい/小規模多機能型居宅介護 ぼだいじみんなの家/みなくちみんなの家(グループホーム、デイサービス、ケアプランセンター)/ぼだいじ訪問看護ステーション/デイケアの家おしどり/ゆめとまの家おしどり

発行日 2017年1月

発行責任者

理事長 奈良 譽 夫
館長 森口 茂

振込口座費

取り扱い金融機関 郵便局
口座番号 00960-0-109363
社会福祉法人 近江ちいろば会
会費・年額1口 5,000円(何口でも可)

年の初めに

お正月になるとカレンダーも日記も新しいページから始まり、私たちは新たな気持ちで新しい年をスタートします。その年の予定や各種の計画を立てる人もいるでしょう。そのような時に、もう一つ作っておくとよいものがあります。

ある人に、「私はしゅうかつ中です」と言ったら、「まだ働くのですか?」と言われました。その人は、「終活」を「就活」と理解したようでした。同じ発音でも、一方は始まりを、他方は終わりを指すのですから、ずいぶん方向が違います。しかし、共通していることは、自分が考えたり計画したとおりににはならないことが多いということではないでしょうか。就職は採用者側の意向によって左右されますが、自分の生涯の終わり方も、関わりを持つ人たちの考えや制度などにかかり影響されます。たとえば、延命治療を受けたくなくても、倒れて救急車で運ばれば、医師は本人の意思に関わりなく役割として可能な限りの延命治療をします。

柳田邦夫さんが、『「死の医学」への日記』で、自分の死を設計することを奨めています。この著作が出た後

くらいから、設計内容の記述書の例として、『グランドノート』や『ライフメモリアルノート』のような名称のものが関連する企業や信託会社などから出されています。これらには、遺言の効用や目的、遺産の内容や整理、終末期の処置、終の住処、葬儀の形式、墓、成年後見制度、意思の周知方法、などの説明と記述方法が含まれているので、ガイドに従って作成することは容易です。このようなものを作っておけば、終末期における自分にとって周りの人たちにとっても、非常に有意義であることは言うまでもありません。最大の問題は、まだ元気なうちに、あるいは自律している時に、このようなものを作る気があるのか、無いのかということではないでしょうか。新年早々、「縁起でもない」と考える人も多いと思いますが、作ったものを、毎年の初めに、見直して変更したり、削除・追加したりしていたら、その年は何の憂いもなく、それこそ長生きできる秘訣かもしれません。

近江ちいろば会 後援会長 平野 正

基本理念：人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

私たちはキリスト教の精神に基づいて、高齢者の全生活において、「隣人愛の奉仕」を実施することを基本理念とします。

日本通所ケア研究大会に参加

2016年11月11日～12日 会場:広島県福山市

テーマ

利用者のやる気と笑顔を引き出すための自立支援プログラム(利用者主体の食事準備)

小規模多機能居宅介護
ぼだいじみん家の家
久保あづみ 伊藤采花

利用者さまが中心になって食事準備をおこなっている現在の取り組みを作るために、どのように環境の改善をおこない、どのように職員間で共有してきたのかをまとめました。まとめる作業の中で職員ひとりひとりが普段のケアを再度振り返ることができ、自立支援の目的を改めて再確認するきっかけにもなりました。今後更なるレベルアップにつなげていきます。



テーマ

自発性を高めるための環境改善

デイサービスセンター
みなくちみんなの家
発表者 廣本篤司

利用者の方に出来る事、したいことを普通にさせていただき、心身の健康や自立支援に繋がりたいと考え、昨年の業務改善委員会を取り組んだ、「自発性を高めるための環境改善」について発表させて頂きました。発表を通して、伝えたいことを伝えるにはまず、聞く側の立場となって考える事が大切であると学びました。また取り組みについて振り返り、今後みなくちみんなの家が目指す姿を改めて考える機会となりました。



テーマ

地域の安心につながる総合事業を目指して

デイケアの家おしどり
(ふれあいの家おしどり)
木内重雄・富長俊文

ふれあいの家おしどりは、デイケアの家おしどり開設時から15年にわたって地域の介護予防の活動を、試行錯誤を繰り返しながら行ってきました。今回の発表の準備にあたって、今までの活動を整理して文章にし、そして全国的な研修会の場で声に出すことで、このふれあいの家の地域における役割の大きさや、今までの活動がきちんと実を結んでいることを改めて感じる機会となりました。簡単ですが発表内容を報告させていただきます。

「今現在の生活をいかに長く継続していくか？」ふれあいの家おしどりでは、人が人とつながることによって生活域が広がる機会を創り出すことができるという希望を持ち、約15年にわたって様々な取り組みを行ってきました。これらの活動によって、「人との交流の機会」は勿論の事、「行くところがある」「趣味や特技を発揮できる」「自分が必要とされている」など、様々な効果があり、安心の中で今の生活を維持できると実感しています。2017年度から湖南市でも介護予防を対象にした総合事業がスタートします。今後も「地域の安心につながる総合事業」を目指した活動の「家」となるよう、地域の皆様と一緒に歩んでいきたいと思います。



“チームワークとは、「共通目標」「役割分担」「相互協力」なのです。” ～管理者研修・主任研修より～

今年度の階層別研修の一環として、「管理者研修」(8月27日)、「主任研修」(11月19日)を開催しました。今回の研修は、「介護現場をよくする管理業務実践講座」と題して、榊原宏昌氏(天晴れ介護サービス総合教育研究所 代表)を講師に迎え開催しました。管理者、主任の管理者としての責務は業務管理と人材育成であることや、有効な事業所運営のための各種チェックリストの活用などについて学びました。また、最後には、当法人が目指している「自立支援」について考える機会や、参加者が日頃から抱えている問題・課題について榊原氏からのアドバイスを頂くなど、非常に学びの多い、充実した一日となりました。



認知症にかかる医療と介護の滋賀県大会に参加

2016年12月18日 会場:ピアザ淡海

テーマ

認知症アセスメントに基づく家族と事業所間共有ケアプログラム

ぼだいじデイサービスセンターいこい
廣本 由里子

一人ひとりのケアを見直し、利用時間に限られた支援ではなく在宅生活を維持する為に、デイサービスや家庭での工夫を取り入れ、その利用者に関わる者全体で過ごし方を把握・共有できるツールを作る事を目標に取り組みました。



- 【方法】
- ①自分史の作成
 - ②自宅での過ごし方と問題行動の調査(DBDスケール使用)・家族の思いの聞き取り
 - ③DASC-21を使った認知症の評価
 - ④過ごし方の見直し

- 【結果】
- ①4名分の自分史を作成
 - ②自宅とデイサービスでのお越しの差や家族の困り事が明確になる。
 - ③DASC-21で評価することで、記憶・見当識・問題解決判断力・ADLの視点から認知症の程度を評価し、ご家族に説明することができた。
 - ④上記の方法と結果から、それぞれの方にあった過ごし方を再検討し、本人・ご家族・ケアマネジャーにデイサービスでの過ごし方が見える化するように「お過ごしシート」を作成し説明した。

「今後のデイサービスの進む方向」

デイサービスセンター みなくち みんなの家
廣本 篤司

今後のデイサービスの進む方向として、改めて「デイサービスの目的」とは何かを考える必要があります。右下の図のように、居宅サービスは「心身機能の維持・向上」「活動の維持・向上」「社会参加の促進」といった、「ご自宅での生活」をいかに維持、向上していくのかが大切です。

ただ来て頂いて、楽しく過ごして頂くだけでは目的は達成できません。利用者、ご家族と目標(家で風呂に入りたい・趣味を継続したいなど)を共有し、それに向かって専門的な視点で必要な機能訓練(目的別の小グループによるグループワークなど)を行い、ご自宅での生活に繋がっていく必要があります。

そういった活動の土台はアセスメントです。アセスメントとは、より自立したイメージや、未来の希望する生活スタイルが、利用者の中で具体化できるように働きかけ、「今は出来ないけれど、これが出来たら生活が楽になる、楽しくなると感じることはありませんか?」というように、利用者の暮らしぶりの現状を把握していく作業です。

「住み慣れたところでいつまでも暮らしたい」というのは、皆さんが願う事です。デイサービスとして、そんな皆さんの願いをどうすれば実現できるのか、専門性や根拠を持って考えていく事が、今後デイサービスが進むべき方向であると考えます。

